



第12号（令和3年3月12日発行）伊丹市立北中学校長 升井竜雄

3月11日（木）、第72回卒業証書授与式が行われました。
今年度の卒業証書授与式は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、縮小しての実施となりましたが、卒業証書授与の際は、心を込めて返事をする卒業生の立派な姿を見ることができました。
送辞は在校生を代表し2年3組の頼庚輝さんが「卒業生を送る言葉」で3年生への感謝の気持ちと北中学校の伝統を守る在校生の決意が述べられました。
そして、答辞は卒業生の3年4組の中井彬人さんと3年5組高橋愛良さんが3年間の思い出や未来への希望と、お世話になった保護者の方々や先生方へのメッセージを「別れの言葉」として堂々と伝えてくれました。
式後には、グラウンドに出て、最後の学年合唱。「大地讃頌」「虹」「旅立ちの日に」の3曲を披露してくれました。この1年間行事も少なく、保護者の方々に成長の過程をお見せする機会がほとんどなかったのですが、最後に成長した姿を見せて卒業してってくれ、感慨無量でした。1、2年生は式に参加できなかったのが3年生が最後に残した「別れの言葉」を紹介します。

答 辞

季節の風を感じながら、自転車走らせた北中学校への道。校門のサクラには、つぼみがつき始め、春の訪れを告げています。今日、私達216名は、卒業の日を迎えました。三年間をふり返り、思い出を、この答辞につづります。

初めての行事は、近江八幡での「サクラ合宿」。飯ごう炊さんや筏レースに、悪戦苦闘しながら、クラスの仲を深めることができました。そして、琵琶湖湖畔でのスタンプ。教頭先生扮する「火の神」の「矢を放つ!」の声と共に、クラスの出し物や飛び入りの演技が始まり、大いに盛り上がりました。今思うと、「伝統ある北中学校の一年生になろう」と、必死に頑張っていた、「私たちの姿」がそこにありました。

中堅学年の二年生。楽しみにしていた「トライやる・ウィーク」では、地域の方々に、本当にお世話になりました。この一週間で、「働く」ことの厳しさや、「挨拶」・「時間を守る」ことの大切さを学ぶことができました。そして、毎日、私たちのために働いてくれている、父や母の「ありがたさ」を実感しました。

体育大会では、本格的なマスゲームに挑戦しました。一人一人の動きを、全体の中で確認しながら、必死に練習しました。「一人では作ることのできない集団の美しさ」を目指して、学年全員が、力を出し合いました。「仲間への深い信頼」と、「学年が団結できたうれしさ」が胸に広がりました。

55年の歴史に幕を下ろした連合体育大会。一年生の熱い拍手に迎えられて「伝統の行進」を披露しました。「北中生の誇り」と「歴史の重み」が深く心に刻まれた瞬間でした。

神戸の町を班で回った校外学習。撮った写真を競う「フォトコンテスト」が、図書委員会の企画で行われました。友達のカメラセンスに驚いたり、ユニークなキャッチコピーに感心したり・・・この「神戸の一日」を、新聞にまとめ、コンクールに応募し、表彰された人もいました。「伝えること」の楽しさや「表現する」おもしろさが感じられ、充実した二学期でした。

三年生ゼロ学期と言われる、二年生の三学期。思いがけず、新入生の保護者の前で「大地讃頌」を歌う機会に恵まれました。たくさんの拍手をいただいて、とても、晴れがましい気持ちになったことを思い出します。「さあ、いよいよ三年生だ!。頑張っていこう」という気持ちが高まっていました。しかし、私たちの希望は、緊急事態宣言によって、打ち消されてしまいました。お世話になった先輩たちの卒業式にも、参加ができず、合唱も披露できませんでした。

二年生の「締めくくり」が、十分にできないまま、三年生を迎えてしまいました。「不安と焦り」を感じながらの、四月・五月でした。しかし、そんな中でも、自主的にトレーニングを続け、部活動に備えていた友達もいました。学年の仲間には、世界に挑戦する人や、県大会・近畿大会を目指す人もいて、黙々と努力をしていたのです。

六月には学校が再開され、教室に全員がそろった時は、本当にうれしかったです。「密」を避け

ることは「新しい生活」の基本ですが、私たちの「心」は、ぐんと近づいていくようでした。

諦めていた修学旅行や最後の総体も、形を変えて実施され、本当に感謝の気持ちでいっぱいでした。修学旅行で長崎に行くことはできなかったけれど、「千羽鶴の平和祈念像」が長崎に届き、市長さんからお礼のメッセージをいただきました。私達の「平和への思い」がつながったことに、とても感動し、勇気づけられました。

そして、行事。学年が一つになって取り組んだ演技発表会。「ハカ」を取り入れた迫力ある男子の演技! 女子は創作ダンスでクラスの一体感を表現しました。秋空のもと、思いっきり演技ができた爽快感は、学年スローガン、「HOME」の青い文字と重なりました。

合唱交流会は、マスクを付けての合唱でしたが、「みんなで歌える幸せ」を体中で表現しました。下級生や保護者の方に、聞いてもらうことができず、残念でしたが、絶対に忘れることのない「合唱」になりました。

一つの目標に向かって、仲間と共に挑戦し続けた部活動。悔し涙を流したり、苦しい思いもたくさんしました。でも、最後までやり切ることができたのは、「どんな時」も励まし、支え合った「仲間」がいたからです。チームのみんなが、笑顔で収まっているアルバムを見ると、「一番輝いていた瞬間」が、よみがえってきます。

後輩に抜かされた。「悔しい気持ち」を押しこらして、練習から遠ざかろうとした。しかし、心の奥底にあった「テニスへの思い」が、自分を押し戻してくれた。「これで、みんなで戦えるな!」待っていてくれた「先生の言葉」が、うれしかった!!。「今年こそ県大会!」。これを目標に、毎日練習してきた。しかし、楽器を吹くことも制限され、コンクールも中止になった。「大きな夢」は叶わなかったけれど、後輩達に教えることが新しい希望につながった。最後の定期演奏会は、74人の思いを乗せた「最高のフィナーレ」だった!! たくさんの「思い出」と「夢」を与えてくれた、かけがえのない「場所」、それが「部活動」でした。

迷い、考え、そして精一杯の努力をして迎えた高校入試。今まで感じたことのない「緊張感と不安」を抱えながらも、自分を信じ、ペンを走らせました。三年生全員が、「希望の春」を迎えるために、それぞれの道へと歩み始めたのです!。教室の「日めくりカレンダー」が進むにつれ、北中学校で過ごす時間も、少なくなっていくます。それと同時に、「仲間との時間」を、今まで以上に大切にするようになりました。

「喜び」も「悲しみ」も分かち合ってきた「友達との絆」は、これからも変わることはありません!! 振り返ると、多くの人に支えられ、学び、歩んできた三年間でした。特にこの一年は、今までに経験したことのない、「試練の年」でした。「積み重ねてきた力」を、「存分に発揮できない」悔しさがありました。けれど、忘れてはならない「大切なこと」にも気づかせてくれました。

「机を並べて、共に学べる喜び」「私たちを包んでくれる家族の温かさ」「友達や先生たちとの何気ない会話」。「当たり前の日常」がどれだけ尊く、幸せなことだったのか、思い知らされました。そして、「学び続けることの大切さ」も!。みんなで乗り越えてきた、この一年間!!。私たちの経験や思いは、必ず、次への「エネルギー」となって将来につながると、「信じます」!

今日まで深い愛情を持って、私たちを導いてくださった先生方!。授業でも、いろんな学習法や勉強の楽しさを教えてくださいました。また、私たちが安心して過ごせるように、教室の衛生環境にも心を配ってくださいました。校長先生をはじめ、諸先生方、技能員さん、給食のお世話をしてくださった方々。「本当にありがとうございました。」

そして、一番近くにいて、どんな時も、一番の味方になってくれた「お父さん、お母さん!。」「いつも、大切にしてくれて、ありがとう!。」これからもたくさん迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いします。

最後に、私たちについて来てくれた、下級生の皆さん。生徒会活動をさらに盛り上げ、より素晴らしい北中学校を作ってください。

四月が来て、北中学校のサクラが、「見事に咲く頃」、私たちは、それぞれの道を、歩み始めています。新たなその道で、「人との出会い」を大切に、「学ぶこと」を忘れず、「自分らしく」「豊かな心」を持って、人として成長していきたいと思ひます。

今日のこの感激と、「大切なみんなとの思い出」を胸に、私たちは、大好きな北中学校を卒業します。

令和三年 三月 十一日
第72回卒業生 代表 中井 彬人
高橋 愛良